

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300448		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	栃木グループホームそよ風(さつきユニット・さくらユニット共通)		
所在地	栃木県栃木市沼和田町10-10		
自己評価作成日	2020年12月22日	評価結果市町村受理日	2021年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	2021年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

栃木グループホームそよ風は栃木駅南口より徒歩5分の静かな住宅街にあります。北側には広い公園、近隣には総合病院やクリニック等があり生活しやすい環境です。入浴のお好きな方には毎日入浴して頂いたり散歩のお好きな方には天候の許す限り毎日散歩に同行するなど、お一人お一人の思いを尊重し笑顔で自分らしく穏やかに日々を送って頂けるような支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人権を尊重し住み慣れた地域で生き生きと生活してもらう」という主旨のグループホームの理念を念頭に、特に利用者を尊重した会話を心がけている。わからなくなってしまう利用者には、「大丈夫だから、いつでも何度でも聞いてね」と利用者が安心できるような声がけをしている。また、利用者が動こうとすると制止するのではなく、その時の気持ちを尊重して対応するなど理念を意識して支援している。馴染みの人や場所との関わりが年の経過とともにだんだん少なくなる中、コロナ禍で更に馴染みの関係が遮断され、継続するための支援に苦慮している。家族との面会が自由にできず、家族が付き添うかかりつけ医への通院だけは継続しているが、その後に家族と過ごす時間も制限されている。その様な中、感染防止の配慮をしながら、成人式を迎えた晴れ着姿の孫と短時間ではあるが玄関先で会い、写真を撮るなど、限られた中で喜びを感じられるように工夫して支援している。利用者が散歩で屋外に出た瞬間に喜びの表情が見られるので、できるだけ毎日、事業所の目の前の公園に散歩に行けるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の人権尊重を基本とした理念に基づき支援を行っている。事務所に理念掲示し、実践して利用者が穏やかに落ち着いた生活が出来るように 職員全員が心掛けております。	理念を念頭に、特に利用者を尊重した会話を心がけている。また、利用者が動こうとするとき制止するのではなく、その時の気持ちを尊重して対応するなど、理念を意識して支援している。利用者のメンバーが入れ替わったときの落ち着かない状態をケアを工夫することによって改善し、穏やかに生活できるようしている。また、職員は、コロナ禍で外出ができない状態でも、ホーム内ではいきいきと生活してほしいと思って日々支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は新型コロナウイルス感染防止の為、地域との交流は出来なかった。	自治公民館で開催される敬老会への参加、事業所が開催する納涼祭に自治会の皆さんを招待するなど限られた交流の機会が、コロナ禍で絶たれてしまった。その様な中、目の前の公園や事業所周辺などの清掃を職員で取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流が難しく、地域の方へ貢献する事が出来ませんでした。認知症について、例年とは違った形で発信出来るようにしていければよかったと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は奇数月に開催しており、利用者様状況や活動内容を報告し、委員の方の意見や情報を受けています。5月・7月は、コロナ禍にて、書面での報告を行っております。。	運営推進会議は、コロナ禍で年度初めから事業所内部のメンバーのみ参加の開催となり、外部の委員には書面で運営状況の報告をするだけとなっていた。11月には久々に外部委員も参加して開催できたが、1月にはまた書面での報告に戻っている。	コロナ禍で、運営推進会議は外部の委員には書面での運営状況を報告するだけで、意見やアドバイスが受けられる状態にはなっていない。コロナ禍だけでなく、なかなか参加できない家族からも意見等を出してもらえるように、書面での参加方法を工夫することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明点などがあった時は、連絡を取り協力を頂いています。担当課を訪れた時にも情報交換しております。	運営推進会議には、市の直営である地域包括支援センターの職員のみが参加しており、担当課との関係は事故報告や各種申請の時に限られている。コロナ禍での市との関係は、国や県からの情報の伝達以外は、提供されたマスクや消毒薬の分配と、生産者支援のために取得した蘭やシクラメンの花を事業所に届けに来たことである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権尊重を基本理念とし、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。窓やホールのドアの施錠については、利用者様の状態、職員の状況によって対応できない場合としております。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会は内部の委員で構成され年4回開催されている。学習会も年2回開催され、基本となることを学び、研修として虐待防止自己点検シートによりチェックを行っている。日常の支援の場面でお互いに気がついたことを確認しあうことを恒常的な取組としたいと考えている。	身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会報告書の様式は、検討事項が具体的に記入できるもので、気づきの共有の項目では「良かったケアの方法、悪かったケアの方法」を具体的に記入するようになり、ケアの質を分析するために有効に活用することが期待できる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止研修を行い、理解を深めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて、支援体制の見直し整備に努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明を行い、入所時以降の制度改正や報酬の変更など、必要に応じての説明、同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お正月に家族会を行い、家族様同士の意見交換や利用者様の日々の生活状況を伝えたりすることが出来ました。家族様の要望など聞く機会を設けております。	2020年のお正月には家族会を開催できたが、それ以降はコロナ禍で家族会の開催を見送り、面会も制限され、家族に直接意見を聞く機会が限られている。介護計画策定や利用者の状態に変化があった時などに電話で「何かありますか」と意見や要望を聞く程度となってしまった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議にて職員の意見を集め改善に取り組んで 管理者と職員が日常的に意見交換出来るようにしております。	月1回開催される全体会議やグループホームの職員会でも職員は積極的に意見を出している。細かいことはその都度提案してみんなできり易いように改善している。職員からやりにくかった業務の流れの改善策が提案され、ケアの改善・ケアの統一に繋がり、必要なら勤務体制の改善まで行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況を把握し、職員がやりがいを持って働けるように職場環境の条件整備に努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、ケアの質の向上に努めている。外部研修では、情報交換の場として職員のスキルアップにつながっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者との協議会に毎月参加し情報交換を行っている。デイサービスやショートステイの管理者とも活動を通して情報交換して、サービスの質の向上に取り組んでおります。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、本人と会う機会を作り不安を軽減出来るように努め、本人の気持ちに寄り添いながら入所行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、家族様の訴えを聞き、家族様の意向に耳を傾けながら、家族様も一緒に支援出来る関係性を作っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がどのような支援が必要なのかを本様、家族様と話し合い、本人様にとって最良のサービスを提供するように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを見つけて一緒に行ない、いつも感謝の気持ちを伝えて関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは日頃の様子など連絡し、受診や面会に協力してもらって一緒に支え合う立場にあるようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前では家族様と行きつけのお店など、定期的に行っていたが、コロナ後は感染防止の為、困難となりました。	馴染みの人や場所との関わりが年の経過とともにだんだん少なくなる中、コロナ禍で更に馴染みの関係が遮断され、継続するための支援に苦慮している。家族との面会が自由にできず、家族が付き添うかかりつけ医への通院だけは継続しているが、その後に家族と過ごす時間も制限されている。その様な中、感染防止の配慮をしながら、成人式を迎えた晴れ着姿の孫と短時間ではあるが玄関先で会い、写真を撮るなど、限られた中で喜びを感じられるように工夫して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様の発言や行動を観察し、間に入りながら良い関係が続くようにしています。興味のある話題提供など心掛けて気持ち良く過ごせるよう支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応出来るように努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴や習慣を学び、それぞれの思いを尊重しております。	利用者の暮らし方の希望や意向は、介護スタッフが日常のケアから汲み取り、現場に入ることがある介護計画作成担当者も直接把握して独自のアセスメント表にまとめている。家族からは面会の時などに意向を聞き取るが、コロナ禍で現在は限られたものとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様から出来る限り、お話を伺い、本人の理解を深めるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報共有により一人ひとりの現在の様子を把握するようにしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族様の思い、日常の状態を把握して計画を立て、3カ月に一度モニタリング行っております。	計画作成担当者は、立てた介護計画について介護スタッフからケアの現場で意見を聞き取っている。日常的に行っているケアに関する話し合いとモニタリング結果をケアの見直しに繋げ、介護計画の見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細な事でも気づきがあれば、申し送りに残すように努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族様の状況の変化に応じて、必要なサービスに取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流が難しく、本人の力を発揮する場面を支援出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様と相談の上、主治医とする医療機関を決めて頂いております。訪問診療も選択技の中に取り入れております。	事業所の協力医院をかかりつけ医としている利用者や、個人で契約して訪問診療医をかかりつけ医としている利用者、また入居前からのかかりつけ医を受診している利用者もいる。かかりつけ医への受診は基本的に家族が対応し、利用者の状態に変化があった時には伝言メモを渡して状況を伝え、受診結果は家族から口頭で聞き取り、その内容を申し送りノートに記載して職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態観察し、些細な気付きも報告し指示を仰ぐようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関と連携を図り、情報提供を受け早期退院相談に努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、家族様と話し合い方針を決め支援しています。訪問診療を取り入れご家族が希望される場合は終末期の対応を行っています。	法人として看取りの指針があるので、訪問診療・往診を契約している利用者については、家族が希望する場合は、事業所で看取りの対応をしている。利用者が重度化した際に、改めて家族と話し合いをして支援の内容を決めている。これまでに実際に看取りを経験した職員もいて、その際には職員に対する精神的ケアを行った。利用者が重度化した終末期を迎えた際には、24時間対応の訪問看護が利用できるもので、職員もチームとして支援に取り組む環境が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの整備をし、急変時の対応が出来るようにしています。AED講習、救命救急の研修も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い災害対策、備蓄の準備は出来ております。	年に2回、火災を想定した防災訓練を実施しており、11月は消防署立ち合いのもと、通報、誘導、消火器の訓練を行った。訓練には実施日に出勤している職員が参加するため、シフトの関係でまだ一度も参加できていない職員がいる。管理者は、職員全員が通報や誘導の訓練を経験できるように、簡易形式での訓練を毎月実施したいと考えている。	夜間想定避難訓練、地震発生後火災が起きた場合の訓練等、今後も様々な災害を想定して訓練が実施されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人の個性や好み等を把握し、尊重した声掛けや対応に努めております。	接遇研修を行っており、職員は事業所の理念である利用者一人ひとりの人権を尊重するよう心がけている。わからなくなってしまった利用者には、「大丈夫だから、いつでも何度でも聞いてね」と利用者が安心できるような声かけをしている。職員が支援にあたる際には、利用者のプライバシーに配慮して、自分だっただけ見せたくないもの、知られたいくないことをあからさまにしないなど、その人が嫌がるようなことはしないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	皆さん自分の希望や意見を表す事が少ないので、日頃の会話や不満等を傾聴し思いを汲んだ対応をするようにしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを優先し、こちらからの押し付けにならないよう心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出来るだけご自分で選んでいただき、状況や気候に合わせて支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好みを把握し声掛けなど行い楽しく食事が出来るようにしています。食事の準備後片付け、メニュー表の記入等を行っております。	毎食のご飯とみそ汁、朝食のおかずは事業所のキッチンで職員が用意し、昼食と夕食のおかずは、隣接する同一法人の厨房で作ったものが届けられている。法人内の統一メニューであるため、一人ひとりの食事の好みにはなかなか対応できないが、美食祭りや郷土祭りなどのイベント食を楽しんでもらう機会がある。食材の刻み作業や食器拭きなどは、利用者の中でできる人が交代で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス・カロリーは栄養士が管理している。食事量・水分はご利用者様のその時の状態を考慮しつつ声掛けを行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	時には口腔ケアの大切さもご説明しながら、毎食後口腔ケアを実施していただいています。希望者には訪問歯科を導入して口腔内のチェックを行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜共に出来るだけトイレでの排泄が出来るよう支援しております。夜間は時間を決めてトイレ誘導している。立位困難でも職員2名対応でトイレでの排泄が出来るよう支援しております。	日中おむつをしている人は1名だけで、ほとんどの利用者が一部介助や見守りを受けながら、自立してトイレでの排泄ができています。失禁の回数が増えたので、トイレへの誘導回数を増やし、排泄の失敗を減らせたケースがある。一人ひとりの排泄サインやタイミングについては、記録を見て判断している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理を行い運動や乳製品等で便秘予防を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望、状況に応じ入浴を行っています。希望される方には毎日入浴して頂いております。	一日おき、もしくは希望すれば毎日でも入浴できるが、職員のローテーションの関係で、夕方のみの対応になっている。入浴が億劫な利用者には、シャワーだけで対応したり、翌日の入浴を勧めて、できるだけ一日おきには入浴できるように支援している。また、ゆず湯やしょうぶ湯などで入浴を楽しめる機会も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの1日のリズムを把握し、ご自身のペースでゆったり過ごせるよう心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを作り管理。服薬の際は2名でチェックしております。症状の変化は主治医や家族に速やかに伝えております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、興味がありそうな事、来る事をコミュニケーション等の中から見つけ役割を持って生活出来るように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には可能な限り周辺の散歩を行っています。外出は新型コロナウイルス感染防止の為、今年は制限されてしまいました。	利用者が散歩で屋外に出た瞬間に表情に喜びがあふれるので、できるだけ毎日、事業所の目の前の公園に散歩に行けるように支援している。コロナ禍になってからは、恒例だった年に二回のお花見や、車での外出ができなくなったため、体操のDVDを使いみんなで室内で体を動かして気分転換している。今後は、併設の高齢者住宅に定期的に来ている移動販売車で買い物が楽しめるようにしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は施設で管理していますが、希望があれば自身で少額をお持ち頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話はいつでも使用できるようにしています。今年はリモートでの面会も実施しております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は掃除をこまめに行い、気持ちよく過ごして頂けるようにしています。掲示物などで季節感を出すようにしております。	日中利用者は、それぞれの部屋や日当たりの良いリビングのソファに座って、テレビを見たりしながら思い思いに過ごしている。リビングや廊下の壁には、利用者たちが作った季節の飾り物が掛けられ、デイサービスのスタッフが描いた栃木ケアセンターそよ風の設立20周年を祝うにぎやかな壁掛けが飾られている。食堂のテーブルには、新型コロナウイルス感染防止のために事業所手作りの飛沫防止パーテーションが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況によりソファに座ったり好きなテーブルに座ったり、コミュニケーションが取りやすいようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は日頃慣れ親しんだものを自由に持ち込んで頂いています。居室内の清潔を保つよう支援しております。	居室には、事業所備え付けのベッドが置かれ、作り付けの戸棚と大きなクローゼットがあるので、スペースを広く使える。中には、タンスを持ち込んでいる人や、自宅から持ってきたお気に入りの小物や写真をたくさん並べて飾っている人もいるが、ごくシンプルな設えになっている部屋も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで手すりを設置。トイレや居室はわかりやすいように表示しております。		